



厭蝕太平樂記

二拾四

~ 13  
3553  
24



門 13  
號 3553  
卷 24

早稲田 大學 圖書館  
昭和 33.11.10 受  
藏 書

一 賦 詠 古 今 樂 能 志 沙 拉 西

月 歌



一 真 曰 久 牙 御 藤 衣 子 子 子  
沙 拉 西 古 今 樂 能 志 沙 拉 西

一 後 藤 又 三 河 紀 別 古 今 樂 能 志 沙 拉 西

一 河 原 樂 能 志 沙 拉 西

一 樂 能 志 沙 拉 西

厭然を中樂記中九甲也

貞田は牛心鷹と云ふ事

此の中田は京流丸物と云ふ事

此の中田は京流丸物と云ふ事  
 二邊に在る一と云ふ一は小の事也  
 と云ふ事一は行の事也心也といふ事  
 と云ふ事一は行の事也心也といふ事  
 止る事及の事流法なる事也  
 たりと云ふ事一は行の事也心也といふ事

貞田は牛心鷹と云ふ事

此の中田は京流丸物と云ふ事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "貞田" and "鷹".





お侍のちねりし收をく秀頼の御代  
其村の中及び屋中意の南は海をとり  
此七郎の御代は徳下成之に八徳を  
くしし信はし書業信徳の今を治れ  
とあのみまのりわれが人の信を捕え  
あをられしあきしと市七捕人書言押寄  
く討ち切らぬ事攻致し陣方の勇士も  
く是思年人あり討ちいふは集人  
守成といふは信法なるは海に深められ

内堀に徳をいし実をくれあはれは昔しむ如を  
徳に実ありし自をいしはらへしは信友  
いれあはれせめ討ち又一人と実ありあはれを  
とやを物信く致いし物をかて致れ  
信徳をいれあはれは信法をいし十と  
えし信友いれあはれは信法をいしと  
年信友あはれし信法をいしと書業あはれ  
信友いれあはれし信法をいしと書業あはれ  
信友いれあはれし信法をいしと書業あはれ







常は中なる人の持せざるがより又も少振る心  
人なる方なると若くしけしお合ふるに  
と依りて中なる心しし心いづかある  
と清花なる心か致しものやとぞや  
を固くありし心もいづかあるに  
肩を〜お肩〜いづか〜代の心か  
惜〜いづか〜心いづか〜心いづか〜  
たまらぬ心いづか〜心いづか〜  
ゆ〜いづか〜心いづか〜心いづか〜

けいづかの心いづか〜心いづか〜  
致しけしけし心いづか〜心いづか〜  
心をちらし致し〜心いづか〜  
の致し〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜  
〜心いづか〜心いづか〜心いづか〜



二君ははくし 約米道ちうしはきるをさへん  
ふきい後しあししよるを園より  
くむしはくしあししよるを園より  
酒が持たるをれいからししよるを園より  
市をさるをれいからししよるを園より  
すまはくしあししよるを園より  
出さくしあししよるを園より  
別はくしあししよるを園より  
又もはくしあししよるを園より

今もはくしあししよるを園より  
くむしはくしあししよるを園より  
酒が持たるをれいからししよるを園より  
市をさるをれいからししよるを園より  
すまはくしあししよるを園より  
出さくしあししよるを園より  
別はくしあししよるを園より  
又もはくしあししよるを園より

海女又言記の海女

海女又言記の海女

五月甲子 跋い言し  
海女又言記の海女  
海女又言記の海女  
海女又言記の海女  
海女又言記の海女

今令し〜老々々今令るを〜し  
 味のちのあつたふらふらにけけは〜  
 為<sup>し</sup>たふらふら〜し〜  
 後指〜扱又あつたふらふら〜  
 いれあ〜りもま〜は事お平おの  
 少若〜おはを津波を〜の津  
 とあ〜おはのあ〜おは  
 あ〜事〜後〜扱〜  
 ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

今令のあつたふらふらにけけは〜  
 為<sup>し</sup>たふらふら〜し〜  
 後指〜扱又あつたふらふら〜  
 いれあ〜りもま〜は事お平おの  
 少若〜おはを津波を〜の津  
 とあ〜おはのあ〜おは  
 あ〜事〜後〜扱〜  
 ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜



の意なきを以てけの年より藤原の孫有光と  
取らむものかたし世に收じむけ我成り  
然るは人の死人の死す人者なるべし  
是の事はよきはれぬおんりあるは事終  
りし事終りておんりなるは事終り  
わらふ人こそはけしきなるは心あ  
はしなりし事終りておんりなるは心  
あはしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ

山吹今少時よはしなれしは心あはし  
あはしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ  
はしなるは心あはしなるは心あ

押さへば折がなり、突波〜  
な高水は母心とて、渡は〜  
母心の内は、角い〜  
〜七八人を、実〜  
あふる流を、実入〜  
あふ流は、流と〜  
〜山伏の、面〜  
思ふなりし、折〜  
折念の、あ〜

山伏の、心〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜  
〜折が、折〜





福るはるか風鶴と雁りもさくさく音も  
 中なるはあはれとむし者なる物の音なるも  
 ばのむかし正明の日の海に波の音なるも  
 南へなるもあはれなるもあはれなるも  
 けしきもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるも  
 中なるもあはれなるもあはれなるも  
 長びなるもあはれなるもあはれなるも  
 長びなるもあはれなるもあはれなるも

中泥餅ちかぢあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも  
 ちかちかあはれなるもあはれなるもあはれなるも

くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた  
くちの海をよみてはしるすはなはた

軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた  
軍中の軍勢なるをよみてはしるすはなはた

城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々

城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々  
 城々々々城々々々

一賦能古平中祀戶也括甲去行

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

大正... 抄

